



山田泰輔さん（左）と能戸千佳夫さん（右）。北國銀行本店前にて。

北國銀行

株式会社北國銀行

業種：金融

国内店舗数：105店（うち出張所1店／
2022年6月現在）

手形・小切手の「電子交換」に低コストで対応 多種・大量の有価証券を高速でスキャンし高画質のイメージデータを出力

2022年11月に予定されている手形・小切手の「電子交換所」開設に伴い、日々大量の手形・小切手を扱う北國銀行では、電子交換に必要なイメージデータ生成のために業務用ドキュメントスキャナー「fiシリーズ」から「fi-7900」と「fi-7460」を選択・導入し、低コストでの新制度対応に成功しました。fiシリーズの具体的な活用方法について、石川県金沢市の本店とオペレーションセンターを訪ねてうかがいました。

課題 電子交換に対応するにはカラーでのスキャンが必須であるため、カラースキャン機能を備えた機器の導入が必要になった。

解決法 PFUの業務用スキャナーを採用。オペレーションセンターに4台の「fi-7900」、都市店舗に1台ずつの「fi-7460」を導入して電子交換開始に備える。

効果 低コストで電子交換対応を可能にしたほか、都市店舗とオペレーションセンター間の現物輸送コストも削減された。

電子交換に必須のカラーイメージデータを生成するためfiシリーズを導入

— 小切手・約束手形・為替手形（以下、手形・小切手）の電子交換への対応を主導された、北國銀行オペレーション部オペレーション企画グループ長の山田泰輔さんと、株式会社CCイノベーションコンサルタントの能戸千佳夫さんにうかがいます。手形・小切手は振出から支払までのすべてを現物によって行うことが大原則でしたが、電子交換所開設によってどの部分がデジタル化されるのでしょうか。

山田さん 支払人が振り出した紙の手形・小切手が受取人によって銀行に持ち込まれるところまでは従来と同じですが、取立依頼を受けた銀行は、手形・小切手をスキャンしてイメージデータを電子交換所に送るだけで手形交換が可能になります。当行の場合、銀行-交換所間や本店-支店間の現物輸送に要していた年間数千万円のコストが削減されます。また、悪天候や地震などによる遅延リスクの低減なども実現します。

能戸さん ただし電子交換所でAI-OCR認識を行う関係上、イメージデータはカラーであることが条件です。当行にはカラー画像を出力できる機器の持ち合わせがなかったので、検

討した結果、事務負担増とコストを最小限に抑えられる汎用のカラースキャナーを導入しようということになりました。

山田さん 求められたのは、大量でサイズや厚さ・紙質がまちまちの手形・小切手を、高速で正確に読み取れるカラースキャナーです。検討を重ねた結果、読み取りの正確性とスピードを兼ね備えていること、アフターフォローが万全であることなどからfiシリーズの導入を決定しました。

北國銀行では手形・小切手の電子交換に対応するため、毎分140枚/280面のスキャンが可能な大容量・高速スキャナー「fi-7900」をオペレーションセンターに計4台導入しました。



— 手形・小切手はどれくらいの量が発生し、どのように管理しているのでしょうか。参考としてお聞かせください。

能戸さん 当行では常時2万枚から3万枚の手形・小切手をお預かりしています。それらの1枚ずつについて、受取人・支払人・金額・支払期日などをシステムで把握して管理するため、専用の機器で手形・小切手のMICR文字(磁気インク文字)を読み取り、支払期日別や交換所別などで随時仕分けを行います。読み取った情報は商流の分析に使われるなど、当行にとって重要なデータになります。

— そうした管理とは別に、今後はfiシリーズによる手形・小切手のスキャン工程も発生するということですね。

能戸さん はい。ただ工数は増えるものの、スキャンを主に行うオペレーションセンターに大容量で高速の「fi-7900」を4台導入したので、大きな負担にはならないと見込んでいます。

イメージデータの送受信だけで手形交換が完了

従来の手形交換



各地の手形交換所を経由して現物を輸送

手形の電子交換



電子交換所を通じてイメージデータを送受信

手形・小切手など各種の有価証券を「fi-7900」でスキャンし 電子交換所にイメージデータをアップロード

— 「fi-7900」について、オペレーションセンターの船本郁子さんにうかがいます。今後は月に5,000～1万枚をスキャンする方が上がっています。「fi-7900」をお使いになった感想をお聞かせください。

船本さん 紙詰まりが発生しにくく、スキャンスピードが速いので大変満足しています。紙が多少斜めになっても、真っ直ぐに修正された画像で保存される機能が素晴らしいですね。お掃除がしやすい点を含めて全体的に扱いが簡単で、使いやすいと思います。

— 手形に貼られている印紙はスキャンに影響しますか。また、補箋(追加の裏書用紙)のある手形にはどう対処されていますか。

船本さん 2枚送りを検知する機能をオンに

していると印紙を敏感に検知してストップするので、現時点ではオフにしています。補箋付きは先に分けておき、別途スキャンするようになっています。



スキャン終了後の手形と、そのイメージデータ
(写真に写っているのは裏書部分)。



「fi-7900」は開口部が広く、内部清掃などのメンテナンスが簡単にできます。

都市店舗に「fi-7460」を配備して電子交換所に直送、 コスト削減と遅延リスク回避を実現

— 再び山田さんと能戸さんにうかがいます。都市店舗に導入されたコンパクトスキャナー「fi-7460」はどのように運用していますか。

山田さん 東京・大阪・名古屋の3店舗から直接、イメージデータをアップロードするために導入しました。電子交換所開設により地域・場所という概念がなくなるため、店舗にスキャナーを設置すればオペレーションセンターへの現物輸送が不要になり、輸送コストの大幅削減と遅延リスクの回避が実現できます。

能戸さん また当行の支払分に関して、オペレーションセンターから店舗への現物の到着遅延がなくなるという点で、現場は大きなメリットを得ることになります。



都市店舗に配備されたA3対応コンパクトスキャナー「fi-7460」。

